

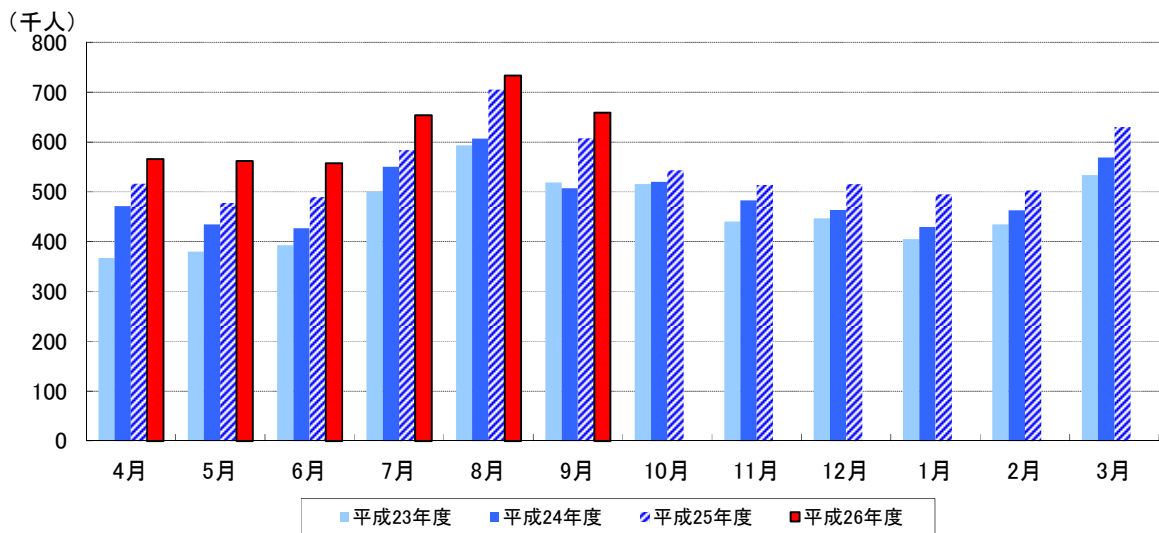
平成 26 年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 26 年 10 月発表

平成 26 年度上半期は、373 万 200 人で過去最高を更新
対前年度(H25)比 +35 万 400 人、+10.4%

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（平成 23 年度～平成 26 年度）



■平成 26 年度上半期入域観光客の状況（平成 25 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成26年度	565,600	561,400	557,300	653,900	733,300	658,700	3,730,200
平成25年度	516,300	477,600	489,100	583,900	705,500	607,400	3,379,800
増減数	49,300	83,800	68,200	70,000	27,800	51,300	350,400
増減率	9.5%	17.5%	13.9%	12.0%	3.9%	8.4%	10.4%

■平成 26 年度上半期の概況（総括）

平成 26 年度上半期の入域観光客数は、373 万 200 人となり、対前年同期比で 35 万 400 人増加、率にして 10.4%増となった。月別では、8月に単月の過去最高を更新したほか、5月・6月で初の 50 万人台、7月で初の 60 万人台を記録するなど、9月までに 24 か月連続で対前年同月を上回り、11 か月連続で月の過去最高を上回る客数を記録した。

前年度上半期と比べて増加した要因は、次のとおりと考えられる。

- 官民一体となったプロモーションの効果
- 円安の継続による旅行需要
- 国内・海外航空路線の拡充

国内観光客についての動向

■平成 26 年度上半期国内観光客の状況（平成 25 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成26年度	491,700	469,700	461,800	561,600	649,100	558,800	3,192,700
平成25年度	466,400	418,200	426,600	518,700	645,100	546,200	3,021,200
増減数	25,300	51,500	35,200	42,900	4,000	12,600	171,500
増減率	5.4%	12.3%	8.3%	8.3%	0.6%	2.3%	5.7%

■国内観光客の概況

国内の旅行市場全体の傾向として、前年度から円安が継続しており、割高感のある海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしていることに加え、沖縄発着航空路線が拡充したこと、沖縄方面への旅行人気の継続などが入込増加の要因とみられ、各方面とも堅調に推移している。

下半期は、10月の台風18号・19号の影響が懸念されるものの、景気は緩やかな回復基調にあり、円安傾向が継続するとみられることから、沖縄への入込は今後も好調に推移することが期待できる。

外国人観光客についての動向

■平成 26 年度上半期外国人観光客の状況（平成 25 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成26年度	73,900	91,700	95,500	92,300	84,200	99,900	537,500
平成25年度	49,900	59,400	62,500	65,200	60,400	61,200	358,600
増減数	24,000	32,300	33,000	27,100	23,800	38,700	178,900
増減率	48.1%	54.4%	52.8%	41.6%	39.4%	63.2%	49.9%

■外国人観光客の概況

円安により割安感のある訪日旅行人気が続いていることに加え、沖縄発着航空路線が拡充したこと（台北-那覇・上海-那覇路線の増便、高雄-那覇・天津-那覇路線の新規就航）、クルーズ船寄港回数が増加したことなどが沖縄への入込増加の要因とみられ、5月には初の9万人台を記録し、5・6・9月で単月の過去最高を更新した。方面別では、前年度後半から尖閣諸島関係の影響より回復してきた中国の伸びが目立つ。

下半期は、複数の航空会社のソウル-那覇路線の新規就航が予定されていること、また台湾-沖縄路線では、冬季運休・減便が昨年度より少なく冬場の落ち込みが小さくなると予想されることなどから、前年度以上の入込が期待できる。